

南関東における臨海公園整備のあり方に関する基礎的研究 The Basic Study on Ideal of Maintenance for Seaside Park in South Kanto Area

○岸田樹¹, 横内憲久², 岡田智秀², 押田佳子², 楠崎悠加¹

*Tatsuki Kishida¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada², Keiko Oshida², Yuka Kusuzaki¹

Abstract: This study aims to describe the ideal of maintenance for seaside park in South Kanto. Therefore, we investigated about park type and characteristic facilities to grasp maintenance condition.

1. 背景および目的

本来の海辺は、海岸林や海浜草原などが成立する場であり、白砂青松と謳われる松林にみられるように、飛砂や潮汐を避ける干渉機能に加え、日本を代表する風景美を創出してきた^[1]。しかしながら、近代以降の沿岸域の開発等により、これらの緑を担保する場は海辺に作られた緑地に依存せざるを得ない状況にあるといえる。これら臨海部に設置された緑地のうちには様々な種類が存在するが、港湾緑地や海上公園の整備状況については宮森ら^[2]によって網羅的に明らかにされているものの、これら以外の緑地の設置状況や整備方針については明らかにされていない。

そこで本研究では、南関東地域(千葉県, 東京都, 神奈川県)の臨海公園に着目し、その整備現況を公園の種類、特徴的な施設の整備状況より捉えたいうで、臨海部という立地を生かした公園整備のあり方を言及することを目的とする。

2. 調査方法

本研究における「臨海公園」は、公園の敷地が一部でも海岸線に接している公園とする。調査方法は文献及びヒアリング調査とする(Table1)。

3. 結果および考察

Figure1 に南関東における臨海公園の位置を、Table2 に臨海公園の概要を、Table3 に各都県の臨海公園の分類を示す。Table2 より、南関東の臨海公園の数は全 100 ケ所みられ、このうち神奈川県が 42 ケ所、東京都が 33 ケ所、千葉県が 25 ケ所であった。これはFigure1 より、千葉県は 3 都県の中で海岸延長が 534km^[3]と最長であるが、内房、外房に海水浴場が多くあるために公園が設置されにくいと考えられる。Table2 より、臨海公園の名称に着目すると、「海浜」を含む公園が 19 ケ所と最多であり、次いで「ふ頭」「海岸」が多くみられたことより、海に近いという立地が名称に反映

Table1 Outline of the Survey (調査概要)

調査内容	文献調査 ^[1]	ヒアリング調査
調査期間	平成 27 年 8 月 4 日~9 月 30 日	平成 27 年 8 月 19 日
調査対象	神奈川県, 東京都, 千葉県の臨海公園	
調査内容	対象地区の選定として、「航空写真(Google Earth)」より臨海公園の定義を満たす全公園を抽出する。臨海公園の概要は設立年、国土交通省が定めている都市公園 環境省が定めている地域性公園の種類、規模(ha)、臨海公園ご特徴的な施設(船着き場、バーベキュー場、砂浜、干潟、ウッドデッキ、展望台、他施設)について文献および各自治体担当者へのヒアリング調査を行った	

されやすい傾向を捉えた。Table3 より、公園の種類に着目すると、近隣公園が 23 ケ所と最多であり、これに街区公園 6 ケ所、地区公園 2 ケ所を合わせた住区基幹公園は 31 ケ所みられた。このことより、臨海公園の多くは地域住民の生活圏に立地しており、地域生活において海を感じる機会が多いといえる。この他に、地域ごとの特徴として東京都には条例に基づく海上公園が、横浜市と川崎市には港湾緑地が多くみられた。

Table2 より、臨海部に特徴的な施設に着目すると、バーベキュー場(BBQ 場)と砂浜がそれぞれ 28 ケ所ずつと最多であり、次いで展望台が 22 ケ所と、レジャー利用を目的とした施設が海上公園や広域公園など、比較的大規模な公園を中心に多くみられた。一方、これらの施設が存在しない臨海公園は 31 ケ所であり、このうち近隣公園が 13 ケ所と最多であった。

以上より、臨海公園の多くは住区基幹公園であるが、これらの公園は設置規模が大きくないことや大人数の来訪を目的としていないことより、大規模なレジャー利用を伴う臨海部に特徴的な施設の設置に至らず、代わりに海上公園や広域公園などが担っていることを捉えた。

4. 参考文献

- [1] 押田佳子・横内憲久・岡田智秀, わが国の植樹学黎明期における海浜植物を通じた人と海浜とのかわりに関する研究: 江戸前植物園をこめる海浜植物の認識状況と観賞形態, 都市計画論文集, 42(3), pp. 1-6, 日本都市計画学会, 2007
- [2] 宮森隆・横内憲久・岡田智秀, 都市臨海部に沿った港湾緑地整備の新たな方向性に関する研究: 川崎港および横浜港を対象として, 日本建築学会計画系論文集, 77(681), pp. 2673-2680, 日本建築学会, 2012
- [3] 国土交通省河川局, 海岸統計, 2014

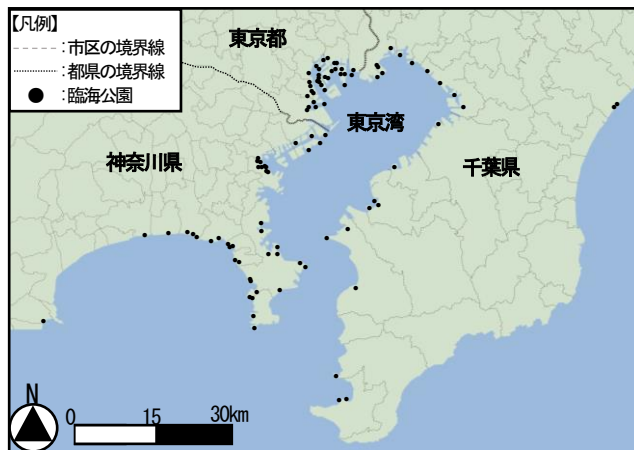


Figure1 Location of seaside park (調査地域及び臨海公園の分布状況)

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

